

目指す学校像	「おもしろさ」を追求する学校～「子どもたちが毎日生き生きと登校し、好奇心をもって学習に取り組み、友達や教職員との温かな触れ合いの中で自分の居場所を実感できる学校」～
--------	--

重点目標	1 子どもたちが好奇心をもって取り組む学習の推進による基礎学力の向上 2 子どもが安全で落ち着いて生活できる環境の整備 3 芝原小コミスクを中心に家庭・地域・学校の連携強化と実践の積み重ね 4 教育DXによる個別最適化な学びの実現
------	--

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成	（8割以上）
	B	概ね達成	（6割以上）
	C	変化の兆し	（4割以上）
	D	不十分	（4割未満）

学 校 自 己 評 価								学校運営協議会による評価	
年 度 目 標								年 度 評 価	
番 号	現 状 と 課 題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等	
1	〈現況〉 ○全国学力・学習状況調査では、国語、算数ともに全国、市平均よりも下回っている状況である。 ○日頃の学習の様子から、話したり聞いたりする活動に意欲的に取り組む児童が多い。 〈課題〉 ○全国学力・学習状況調査の結果分析から、特に国語の「書くこと」「読むこと」及び算数の「数と計算」「図形」「測定」を不得意とする児童が多い。 ○算数において学習が好きな児童の割合が全国、市平均よりも大きく下回っており、算数を学ぶ楽しさを味わえるようにすることが課題である。	・ 学びの個別最適化に向けた情報端末の活用、授業改善	①国語、算数の学習において個別最適化を目指した授業実践を積み、教職員で共有する。 ②全国学力・学習状況調査について、児童が自己採点を行い、児童が自らの学習状況を把握するとともに、誤答が多かった問題について再学習する。 ③全国及び市の学習状況調査の結果を基に、市教委による学力向上カウンセリング研修を受けることで、授業改善につなげ学力向上を図る。	①情報端末を活用した学習の個別最適化を目指した実践を教職員1人あたり年間に1回以上公開できたか。 ②児童が自己採点の結果をもとに、自らの学習状況をつかみ、目標を立て、達成に向けて行動できるようになったか。 ③調査結果の分析結果や学力向上カウンセリング研修を踏まえ、授業改善につながる手立てが立てられたか。	①情報端末を活用した学習の個別最適化を目指した実践は全教職員が課題意識をもって取り組むことができた。 ②全国学力・学習状況調査について、児童が自己採点を行い、児童が自らの学習状況を把握し、再学習に取り組んだ。 ③調査結果の分析結果や学力向上カウンセリング研修を踏まえ、授業改善につながる手立てを立てた。	B	①情報端末を活用した学習の個別最適化を目指した実践は今後も続け授業改善による効果を期待する。 ②全国学力・学習状況調査については、児童への働きかけを意識し自ら学ぶ児童の姿へつなげる。 ③調査結果の分析結果や学力向上カウンセリング研修を続け、客観的な授業改善の視点をもつ。	・ チェレンジスクールでの児童の様子を見ていると得意なもののはよくやるがそうでないものはあまりできない。書くこと、特に、漢字の指導はタブレット端末に頼るのではなく、実際に書くことを続けてほしい。 ・ 新聞の購読が各家庭で減っていると聞く。学校ではNIEの活動が進められていることが分かったが読むことと書くことの学習は続けてほしい。 ・ 学習状況調査の結果が市平均を下回っていることが分かった。引き続き学力向上に向けて取り組んでほしい。	
		・ 算数を学ぶ楽しさを味わえる授業の工夫、改善	①算数において、具体物や半具体物を使って考えることや、定規等を使用した作図など丁寧に取り組み、理解につなげる。 ②学校課題研修を算数に絞り、指導者を招聘して授業力の向上を図る。	①②さいたま市学習状況調査における「算数の勉強は好きですか。」の肯定的な回答の割合が市平均を上回ることができたか。	①②さいたま市学習状況調査における「算数の勉強は好きですか。」の肯定的な回答の割合が市平均を上回る見込みである。	A	①②さいたま市学習状況調査における「算数の勉強は好きですか。」の肯定的な回答の割合を高めることを意識する。		
2	〈現況〉 ○学校評価児童アンケートにおいて「学校に来るのが楽しい」の肯定的な回答をした児童が9割を超えた。 ○昨年度、施設・設備の不具合等が主な原因と考えられる児童の怪我が0件、医療機関を受診した怪我は0件であった。 〈課題〉 ○「心と生活のアンケート」の結果から各学級に様々な不安を抱えている児童がいることが分かる。日頃から子ども達の様子に目を配るとともに、変化には迅速に対応することが必要である。 ○教職員による施設、設備の安全点検を引き続き行うとともに、児童にも安全な生活が送れるように定期的に注意喚起を促す。	・ 児童一人ひとりへの細やかな教育相談体制の整備	①学級経営においては、温かな雰囲気をベースとし、一人ひとりが活躍できる居場所作りを行う。 ②心に不安を抱える児童には教育相談部、生徒指導部等の組織を中心とした組織的に迅速な対応を図る。	①学校評価児童アンケートの関連項目において肯定的な回答をする児童が85％を越えたか。 ②学校が把握する児童の心の不安に対して全てに組織的対応ができたか。	①学校評価児童アンケートにおいて「学校にくるのが楽しい」と肯定的な回答をする児童が86％であった。 ②学校が把握する児童の心の不安に対して全てに組織的対応ができた。	A	①学級経営においては、温かな雰囲気をベースとし、一人ひとりが活躍できる居場所作りを基本とする。 ②学校が把握する児童の心の不安に対して組織的に迅速な対応を図る。	・ 開校40年が過ぎ校庭の遊具の老朽化が心配である。学校職員が毎月、市教委が毎年点検をしていることが分かった。児童の安全のために引き続き行ってほしい。 ・ 放課後、自転車に乗る時にヘルメットの着用が無い児童が見られる。3年生の自転車安全教室や学校からの啓発活動についても分かった。今後も家庭に呼びかけ連携してヘルメット着用を進めてほしい。	
		・ 安全な生活が送れるようにするための教職員による安全点検と児童への意識高揚	①毎月の安全点検を全職員で行い、不具合には迅速に対応する。 ②交通事故、火災自然災害、不審者対応、不慮の事故など安全に関わる学習を計画的に進め意識を高めさせる。 ③生徒指導部の活動を中心に季節に応じた安全意識の向上を図る。	①毎月の安全点検を確実に行えたか。不具合には迅速に対応できたか。 ②交通事故、火災自然災害、不審者対応、不慮の事故など学校安全に関わる学習や訓練を行ったか。 ③学校評価児童アンケートにおいて肯定的な回答をする児童が95％を越えたか。	①毎月の安全点検を確実に行えた。不具合に迅速に対応できた。 ②交通事故、火災自然災害、不審者対応、不慮の事故など学校安全に関わる学習や訓練を行った。 ③学校評価児童アンケートにおいて肯定的な回答をする児童が95％であった。	A	①日頃の安全点検と不具合への迅速な対応を行う。 ②交通事故、火災自然災害、不審者対応、不慮の事故など安全に関わる学習を進める。 ③生徒指導部の活動を中心に安全意識の向上を図る。		
3	〈現況〉 ○学校運営協議会では目指す児童の姿について熟議を積み重ね、協働し、児童の健全育成に取り組んでいる。 〈課題〉 ○子ども達にとっての「ふるさと見沼」を意識した学習活動を展開するとともに、そこに集う地域の方や保護者と協力して本校の課題解決を行う。	・ 本校に伝わる「芝原小さわやかプラン」の共有	①「芝原小さわやかプラン」の柱「『おもしろさ』を追求する学校」に注視し本校の特徴を見出す。	①「『おもしろさ』を追求する学校」に基づく本校の特徴を見出し職員で共有できたか。また、それを生かした次年度の計画が立てられたか。	①「『おもしろさ』を追求する学校」に基づく本校の特徴を見出し職員で共有できた。また、それを生かした次年度の計画が立てられた。	B	①「芝原小さわやかプラン」の柱「『おもしろさ』を追求する学校」に注視し本校の特徴を生かした教育活動を推進する。	・ 近年は夏が猛暑であったり雨が降らなかったりと農作物が収穫できないこともあった。そのような時のリカバリーを考えていきたい。 ・ 学校ファームアドバイザーも高齢となりその対応も考えていきたい。	
		・ 地域や保護者と連携した学習活動の推進	①芝原小学校ファームアドバイザーとの連携強化と活動の充実を図る。 ②保護者と連携して地域の図書館利用を促進し読書活動の充実を図る。	①1、2、4、5学年、特別支援学級で学校ファーム連携学習が1単元以上実施できたか。 ②学校図書館の児童一人あたり貸し出し冊数割合が前年度よりも増加したか。	①1、2、4、5学年、特別支援学級で学校ファーム連携学習が実施できた。 ②学校図書館の児童一人あたり貸し出し冊数割合を前年度よりも増加させることができた。	A	①芝原小学校ファームアドバイザーと更なる連携強化を図る。 ②保護者と連携して地域や学校の図書館利用を促進する。		
4	〈現況〉 ○スクールダッシュボードの整備が進み、それぞれの学級で授業での活用が見られる。 ○各学年学級において児童が情報端末を使った学習が展開されている。 〈課題〉 ○市研究指定の学校課題研修「わかるできる喜びを味わい、自ら学びに向かう児童の育成」を通して、教職員が教育DXによる学びの個別最適化の実践ができるようになる。 ○コンピュータのハード・ソフト両面についての新たな不具合は今後も起こりうることを考えた上での組織的対応の整備が必要である。	・ 市研究指定の学校課題研修「わかるできる喜びを味わい、自ら学びに向かう児童の育成」の実施	①効果的なICTの活用を通した学習展開の工夫につながる授業研究会やICT研修会を実施する。 ②全ての教員がICTの効果的な活用を考えた公開授業を実施する。 ③学びの個別最適化に向けたICTの効果的な活用を取り入れた授業を行う。	①授業研究会4回、ICT研修会3回以上を実施できたか。 ②全ての教員がICTの効果的な活用を考えた公開授業を年間1回以上実施できたか。 ③学びの個別最適化に向けたICTの効果的な活用を取り入れた授業を行っていると考え教職員が80％以上となったか。	①授業研究会4回、ICT研修会4回実施した。 ②全ての教員がICTの効果的な活用を考えた公開授業を年間1回以上実施した。 ③学びの個別最適化に向けたICTの効果的な活用を取り入れた授業を行うことができたと考え教職員が92％となった。	A	①効果的なICTの活用を通した学習展開の工夫につながる研究や研修会を実施する。 ②全ての教員が日々の実践の中でICTの効果的な活用を考える。 ③授業研究会を実施し学びの個別最適化に向けたICTの効果的な活用を取り入れた授業をもとにより授業のポイントを教職員で共有する。	・ 授業参観等でも児童がPCをよく使っていることや教科でPCを使うようにするためにマイクラフト等のソフトを使ってPCの使い方について学習していることも分かった。今後も児童全員がPCを使える学習活動を進めてほしい。 ・ 来年度、市教委委嘱の授業研究会が予定されていることを確認した。児童のためにしっかりと取り組んでほしい。	